

(3) 情緒的成熟 (emotional maturity)

- 1) 情緒的表現が有害な形式から無害なものにとってかわる。
- 2) 情緒的場面において客観的に反応する。
- 3) 感情を害せずに批判を受けることができる。
- 4) 不愉快な事象から逃避せず、それに直面できる。
- 5) 子どもっぽい恐怖や不安をなくすることができる。

(4) 社会的成熟 (social maturity)

- 1) 特定の社会的環境における安全感の発達。
- 2) 通常の社会的関係で他人と協議していくことができる。
- 3) 集団の活動に支配、逃避せずに参加できる。
- 4) 特定の社会集団の中で絶えず行動とか服装を気にするような集団的依存から脱却する。
- 5) 国籍・種族・社会層などに寛大となる。

(5) 経済的独立のはじまり (beginning of economic independence)

- 1) 自己の能力を合理的に、正確に評価できる。
- 2) 成功可能な職業領域が選択できる。

3) 生涯従事するため十分な職業訓練を完了する。

4) 仕事に不可欠な条件の理解。

(6) 知的成熟 (intellectual maturity)

- 1) 権威に対して一般的な疑念を生じ、実証を求める。
- 2) 認識に対する欲求、とくに説明を求める。
- 3) 興味の覚醒、およびこれらの興味を比較的少数に縮める (深化)。

(7) 余暇の利用 (use of leisure time)

- 1) 興味あるもので、しかも精力を浪費しない遊び (興味) の発達。
- 2) あまり準備を要しない通俗のゲームをうまくやれる。
- 3) 容易で、よく読める読書をする。
- 4) 2, 3 のクラブやこれに類する組織の会員になる。

(8) 人生観 (philosophy of life)

- 1) 人生の意義を見出そうとする不断の態度が発達する。
- 2) 理想や行動の一般的原理を会得する。
- 3) 世界における自己の位置を見出す。

来月から、青年期の具体的様相を見ていきたい。

〔筆者は東京学芸大学助教授〕

編集デスク <36>

内科の新しい雑誌 “medicina” (メディチーナ) が創刊されることになった。勤務医をはじめ臨床家の机上には、あまねくこの新雑誌がおめえしていることと思う。内科ないし内科的診療科を標榜する 3 万 7 千の医師が対象であり、啓発的な総合雑誌を狙ったものであるからである。

臨床のドクターの居るところ、ナースの姿がある。新雑誌 “medicina” は、ドクターの勉強家のみを対象にしたものではない。およそ臨床に従事するドクターすべての座右の雑誌として編集されたものであり、そのかたわらにナースの姿がある限り、この新雑誌はナースの目にふれることであろう。

“medicina” はラテン語である。広くは医療を意味し、狭くは内科を意味する。英語の medicine はここ

から出たものである。“medicina” は古今東西を広く見はるかし、フェニックス (不死鳥) のようにはばたき始めた雑誌である。

この雑誌の発刊の辞には “medicina” 編集宣言が載っている。知る人は知るであろう。私たちの生きる昭和のモダニズムの開幕を告げるものは、イタリアに発したマリネッ

医師の机上の “medicina”

——長谷川 泉——

イの未来派宣言であった。日本でも大正の末期から昭和の初期にかけていくつかの宣言がなされた。宣言 (マニフェスト) というものは、概して高い姿勢のものである。相手にアピールする力も強いかわりに、みづからを規制し、みづからをしばる力も強い。“medicina” は、そのような宣言を発してスタートしたのである。

“medicina” 編集宣言は内科の雑誌、そしてドクターの、とくに臨床家の雑誌の編集信条を盛ったものであり、編集者の姿勢を正し、みづからを規制し、1 頁たりとも、この 10 カ条の宣言の内容に背馳することのないことを読者に約束したものである。その精神は、ただに医師の大多数を占める内科臨床医のためのジャーナリズムを貫く精神たるに止まらない。その趣旨は、ナースを対象とした雑誌の編集宣言としても通用するものを持っている。宣言をしかけるか、かけないかの別があるだけである。

本誌の読者の周辺には内科医がおり、その机上には創刊された “medicina” が置かれていることであろう。これを知らないドクターはもぐりである。自画自讃?—とんでもない。疑うものは、あなたのドクターの机上をかいま見て下さい。